

国立大学法人室蘭工業大学 中期目標

(前文) 大学の基本的な目標

室蘭工業大学の基本理念は、「創造的な科学技術で夢をかたちに」である。本学は、この基本理念に基づき、夢を抱く多様な学生を受入れ、幅広い教養教育と技術者倫理、深い専門性を備えた、国際的に通用する創造性豊かな理工系人材の育成や、本学の強み・特性を活かした学術研究・知の創造を以って、社会・地域の発展に貢献する。

本学は、自らの明確な信念や考えのもと、何事にも能動的に振舞うことのできる「自走力」を備え、国際的にも通用する理工系人材の育成を第一の使命とする。そのため、本学は、複雑に変化する社会の要請に機敏に対応できる組織の構築や柔軟な教員組織の運営を行うなど、自立性を持った不断の改善、充実を図った上で、学士課程と大学院博士前期課程を通じた系統的教育や大学院での実践的教育を発展させる。

学士課程では、大学院博士前期課程の基礎をなす専門知識、課題発見と解決能力、倫理性と地域問題に対する理解力を併せ持つ創造的な科学技術者を育成する。大学院博士前期課程では、専門知識の深化と課題解決能力の涵養を重点とした教育を行い、世界的視野を有する高度な科学技術者を育成する。大学院博士後期課程においては、多様な社会ニーズを踏まえ産業界等でも活躍できる「イノベーション博士人材」育成の役割を果たす。

本学の第二の使命は、科学技術の知の創造とこれに関連する学術研究の推進である。航空宇宙機システム及び環境(エネルギー・材料・資源活用)に関する分野をはじめとして、本学の特色、強みを活かしたものづくり産業や工学の諸分野の学術研究を推進し、社会の要請に応え、その成果を世界に発信する知の創造の拠点を形成する。さらに本学教員の専門に応じた国内外の大学等の研究者との幅広い連携・協働により、国際水準の研究成果を生み出していく。

本学は、地域共生を目指し、地域が掲げる産業をはじめとした政策実現の一助として、自治体や企業等との多分野にわたる教育研究に関する産学官金の連携を進展させ、地域が必要とする人材の育成や輩出を行う。さらに、社会人教育や小・中・高校生の啓発的・実践的理科教育にも貢献することにより、研究・教育の両面から北海道地域の中核的拠点として、地域の活性化を促進し、その発展に寄与することを第三の使命とする。

◆ 中期目標の期間及び教育研究組織

1 中期目標の期間

平成28年度から平成33年度までの6年間とする。

2 教育研究組織

この中期目標を達成するため、別表に記載する工学部及び工学研究科を置く。

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

- ① 学士課程では、専門知識や倫理観等を主体的に身につけ、課題解決にあたることができる高度な技術者を育成する。
- ② 社会から要請されている、産業界を支え国際的にも活躍できる有能な理工系人材を、学士課程と大学院博士課程を通じて系統的に育成する。
- ③ 大学院博士前期課程では、高い専門性に加えて、自身の専門領域を超えた分野の幅広い知識や俯瞰力を身につけ、それらを問題解決に活かすことができる高度な科学技術者を育成する。
- ④ 大学院博士後期課程では、産業界等でも広く活躍できる能力を身につけた「イノベーション博士人材」を育成する。
- ⑤ 国際的に活躍できる能力を身につけた人材を育成する。

(2) 教育の実施体制等に関する目標

- ① 学士課程及び大学院博士課程の各コースカリキュラムに係わる教育スタッフを確保するとともに、コース学生数について弾力的に運用する。
- ② 他大学との連携を図り、教育の多様化と高度化を進める。
- ③ 学生が能動的に学修し易い環境を整備するとともに、学生の自己学修管理能力を育成する。
- ④ 国際通用性のある技術者・人材を育成するために、教育の質保証を行うとともに、継続的にその質改善を図る体制を整備する。

(3) 学生への支援に関する目標

- ① 学修に関する環境や指導體制を充実させ、学生の能動的な時間外学習を支援するとともに、全学的な就職支援体制を整備・維持する。
- ② 学生の生活環境を改善するために、生活に関する相談・支援体制を充実させる。

(4) 入学者選抜に関する目標

- ① 学士課程では、科学技術に夢を抱き、世界舞台を目指す、学習に意欲をもった多様な学生を受け入れる。
- ② 大学院博士前期課程では、課題解決のための基礎的素養を備えた学生を受け入れる。
- ③ 大学院博士後期課程では、工学の先進的課題の発見とその解決に強い意欲を備えた学生を受け入れる。

2 研究に関する目標

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

- ① ものづくりとしての高度で先端的な加工技術に関わる重点分野の独創的・先進的研究を設定し戦略的に推進するとともに、新しい重点分野の創出・育成を進める。
- ② 教員組織である「研究ユニット」で行う基盤研究を業績評価によって支援するととも

に、学内公募によって将来性が見込める特長的なプロジェクト研究に対してもその計画・実績に応じて支援する。

- ③ 学術研究成果の論文発表、研究成果に基づく外部資金の獲得及び特許等の取得を積極的に進め、それらの研究水準及び成果を評価・検証して、質の高い研究を推進し、それらを公表する。

(2) 研究実施体制等に関する目標

- ① 強み、特長を踏まえた研究活動を推進するために弾力的な人材配置を行うとともに、研究資源を機動的に有効活用できる仕組みを強化して研究推進体制を充実させる。
- ② 国内外の共同研究、受託研究等を一層推進するため、研究支援体制を強化する。
- ③ 研究活動の評価システムを充実し、研究の質を向上させる。

3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標

- ① 知の拠点として地域の発展に寄与し、シンクタンクとして貢献する。
- ② 社会で通用する学生の教育について、正課及び課外活動等を通じて地域と協働して実施することで、地域に対する視点を養う。
- ③ 次代を担う青少年の科学技術教育や社会人のニーズに即した再教育・生涯教育等、人材開発の場として貢献する。

4 その他の目標

(1) グローバル化に関する目標

- ① 国際水準の教育研究を推進し、海外との留学生及び研究者・技術者等の国際交流を拡大する。

II 業務運営の改善及び効率化に関する目標

1 組織運営の改善に関する目標

- ① 学長のリーダーシップの下、機動的、効率的かつ外部の意見を活かした戦略的な組織運営を遂行する。

2 教育研究組織の見直しに関する目標

- ① 理工系単科大学としての個性・特色を明確にし、先進的かつ先導的な総合理工学研究を実施する教育・研究組織を確立する。

3 事務等の効率化・合理化に関する目標

- ① 大学運営における業務内容を継続的に検証・改善を行い、効率的・合理的な事務執行を実現する。

III 財務内容の改善に関する目標

1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標

- ① 外部研究資金を中心とした自己資金の安定確保に努め、自立性・自主性を高める財政

基盤を構築する。

2 経費の抑制に関する目標

- ① 適正な人員配置による人件費管理や財務分析等に基づく効率的・効果的な予算配分を行い、成果の検証・改善による業務の最適化を行う。

3 資産の運用管理の改善に関する目標

- ① 大学が保有する資産を適正に管理し、効率的な運用を行う。

IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

1 評価の充実に関する目標

- ① 自己点検・評価等を着実に実施し、評価結果を教育、研究、社会貢献等の大学運営の改善に反映させる。

2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標

- ① 教育・研究、社会貢献、大学運営に関する大学情報の積極的な公開及び発信を適切に行う。

V その他業務運営に関する重要目標

1 施設設備の整備・活用等に関する目標

- ① キャンパスマスタープランに基づく施設設備整備を推進し、安全で環境に配慮したキャンパスを形成する。

2 安全管理に関する目標

- ① 教育・研究環境の安全衛生の確保を図り、事故防止に向けた管理の強化と啓発を行うとともに非常時を想定した危機管理を充実する。

3 法令遵守等に関する目標

- ① 法令遵守を徹底し、適正かつ持続的な大学運営を行うとともに、情報セキュリティを向上させる。
- ② 特に研究活動等の不正防止について、学長のリーダーシップの下、不正が起こらないような組織風土を醸成する。

別表（学部、研究科等）

学 部	工学部
研 究 科	工学研究科